

緒 言

産総研では2009年4月から新しく活断層・地震研究センターが発足しました。これまで主に活断層・古地震と被害予測の研究を担ってきた旧活断層研究センターと、地質情報研究部門で地震メカニズムや地震に関連した地下水等の変動現象の研究を担ってきた研究グループとが一緒になって新たな研究センターとなりました。これにより、地形・地質学に軸足を置く研究者と地球物理学に軸足を置く研究者がこれまでよりも密接に協力し合える環境を整えることとしました。今後は、特に、地震現象の地表での現れである活断層や変動地形の研究と、地下深部で進行するプロセスの研究の間に存在する溝を埋めるような研究を積極的に展開していきたいと考えております。

一方、2008年6月には岩手・宮城内陸地震が活断層の認定されていない場所で発生しました。地震後の調査では、本地震も過去に繰り返し地震を起こしてきた活断層で発生した地震であることがわかり、従来の方法では認定の難しい活断層の存在を印象づけました。さらに、南海トラフ沿いで発生する東海・東南海・南海地震の今後30年間の発生確率は50%を超えると予測されています。新しい活断層・地震研究センターでは、このような状況に対応していくための研究展開も重要であると考えております。

さて、『活断層・古地震研究報告』は、今後も、地震に関する調査・研究結果を迅速かつ詳細に報告することを目的に、従来通りの編集方針で、2000部を印刷し関係機関等に配布していく予定です。本第9号は、主に2008年度に旧活断層研究センターが中心となって進めた調査研究の報告となります。外部資金による研究としては、文部科学省からの委託で実施の活断層の追加・補完調査、重点的調査観測の成果として、関東平野北西縁断層帯と高山・大原断層帯、松本盆地東縁断層帯について報告しています。石狩平野と新潟堆積盆地の3次元地下構造については経済産業省からの委託による長周期震動耐震性評価研究の一部です。宮城県北部の地震の3次元断層モデルの研究は原子力安全基盤機構からの予算による成果です。

本報告の内容や、今後の産総研の活断層・古地震を中心にした地震に関する調査・研究の公表の方法について、読者の皆様の忌憚のないご意見を賜りたくお願い申し上げます。最後になりましたが、平成20年度の活断層・古地震の調査研究に際して、関係自治体、教育委員会、地元自治会、土地所有者、諸官公庁の皆様に深いご理解とご協力を賜りました。篤くお礼申し上げます。

平成21年10月23日

活断層・地震研究センター センター長 岡村行信
同 副センター長 桑原保人

目 次

緒 言		i-ii
石狩平野中央部における微動アレイ探査	吉田邦一・堀川晴央・加瀬祐子・丸山 正	1-17
2008 年岩手・宮城内陸地震に伴う地震断層のトレンチ掘削調査	丸山 正・遠田晋次・吉見雅行・小俣雅志・郡谷順英 梶谷忠司・岩崎孝明・石川 玲・山崎 誠	19-54
2008 年岩手・宮城内陸地震後の一関市巖美町中川地区における地表余効変動についての検討 ー住民証言，航空レーザー測量および現地測量からー	金田 平太郎・栗田泰夫・丸山 正・林 舟	55-64
2003 年宮城県北部地震震源域の 3 次元地質構造に基づいた伏在断層モデルの構築	木村治夫・岡村行信	65-78
平井ー櫛挽断層帯（関東平野北西縁断層帯）の地形及びボーリング調査による断層分布及び 活動性の再検討	杉山雄一・新谷加代・宮脇理一郎・宮脇明子	79-111
関東平野北西縁断層帯・櫛挽断層のトレンチ調査	新谷加代・福地 亮・家村克敏・宮脇理一郎・宮脇明子・杉山雄一	113-133
関東平野北西縁断層帯の地下形状ー地形断面と反射断面に基づく推定ー	杉山雄一・横田 裕・末廣匡基	135-158
角田山東縁断層の沿岸陸域における浅部地下構造	山口和雄・住田達哉・加野直巳・大滝壽樹・伊藤 忍・横田俊之・横倉隆伸	159-173
新潟堆積盆地 3 次元地盤構造のモデル化	関口春子・吉見雅行・堀川晴央・吉田邦一・鈴木晴彦 松山尚典・森野道夫・滝沢文教・劉 瑛	175-259
糸魚川ー静岡構造線活断層系松本盆地東縁断層群中央部の古地震調査	遠田晋次・小俣雅志・郡谷順英	261-277
高山・大原断層帯，牧ヶ洞，江名子，宮川およびヌクイ谷断層の古地震調査	吉岡敏和・廣内大助・杉戸信彦・斎藤 勝	279-317
警固断層南東部での極浅層反射法調査の再処理	加野直巳	319-328

【文献引用例】

本報告書全体の場合：

産業技術総合研究所地質調査総合センター（2009）活断層・古地震研究報告，No. 9, 328 pp.

Geological Survey of Japan/AIST (2009) Annual Report on Active Fault and Paleoearthquake Researches, No. 9, 328 pp.

個々の報告の場合：

吉田邦一・堀川晴央・加瀬祐子・丸山 正（2009）石狩平野中央部における微動アレイ探査．活断層・古地震研究報告，産業技術総合研究所地質調査総合センター，No. 9, p.1-17.

Yoshida, K., Horikawa, H., Kase, Y. and Maruyama, T. (2009) Microtremor array survey in the central part of the Ishikari plain. *Annual Report on Active Fault and Paleoearthquake Researches*, Geological Survey of Japan/AIST, No. 9, p. 1-17.

◆「活断層・古地震研究報告」編集委員会

編集委員長	桑原保人（活断層・地震研究センター副センター長）
編集委員	栗田泰夫（活断層・地震研究センター主幹研究員）
	岡村行信（活断層・地震研究センター長）
	小泉尚嗣（活断層・地震研究センター地震地下水研究チーム長）
	杉山雄一（活断層・地震研究センター主幹研究員）
	堀川晴央（活断層・地震研究センター地震災害予測研究チーム長）
	増田幸治（活断層・地震研究センター地震素過程研究チーム長）
	吉岡敏和（活断層・地震研究センター活断層評価研究チーム長）
編集書記	黒坂朗子（活断層・地震研究センター）

活断層・古地震研究報告 第9号（2009年）

発行日 平成21年11月5日

発行 独立行政法人産業技術総合研究所
地質調査総合センター

〒305-8567 つくば市東1丁目1-1
中央第7

印刷 谷田部印刷株式会社

〒305-0861 つくば市谷田部1979-1

問い合わせ先：独立行政法人産業技術総合研究所
活断層・地震研究センター

〒305-8567 つくば市東1丁目1-1 中央第7
電話 029-861-3690, 3640

FAX 029-861-3803

電子メール okamura-y@aist.go.jp, y-kuwahara@aist.go.jp

ホームページ <http://unit.aist.go.jp/actfault-eq/index.html>